

さかえむら
栄村つぐら

長野県知事指定伝統的工芸品
指定年月日：平成26年11月27日



栄村では明治以降に稲作が始まると、冬期に子守りのための「ぼぼつぐら」が稲わらで造られるようになり、昭和初期には小型の「猫つぐら」が多くの家庭で使われていたと言われる。

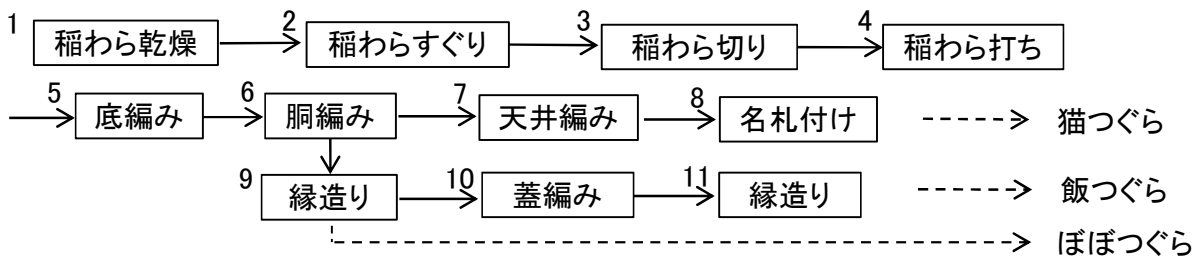
天然の稲わらの暖かき、手作業で丁寧に編み込む伝統技術により、「猫つぐら」の需要が増大しており、栄村の稲作文化として、稲わらのたたき方や各工程の編み方など技術伝承と品質向上に取り組んでいる。

製造者団体	栄村つぐら振興会	下水内郡栄村北信3585-2 TEL 0269-87-3115	事業者数 13
主な製品	猫つぐら、飯つぐら、ぼぼつぐら		
製造地域	栄村		
伝統的な技術・技法	○稲わらには「稲わらすぐり」、「稲わら切り」、「稲わら打ち」を行うこと。 ○編組み工程は手編み加工によること。 ○「縁造り」は三つ編みによること。		
伝統的に使用している原材料	○原材料は稲わらとすること。		

沿革

- ・文政11年(1828年)、文人の鈴木牧之が執筆した「秋山紀行」の秋山民家内之図に、木製の「つぐら」が紹介される。
- ・明治以降、当地でも稲作が始まり、冬場の収入を得るため、乳幼児を入れる「ぼぼつぐら」が造られるようになり、これが稲わらによる「つぐら」の始まりと言われている。
- ・栄村青倉地区の住民によると、子供の頃(昭和初期)には、小型の「猫つぐら」がほとんどの家庭にあったと言う。また、「ぼぼつぐら」で自分の子供をあやしたと言い、当時のものが栄村に残っている。
- ・代替品の普及で次第に生産が減少したが、昭和61年(1986年)、栄村振興公社の発足を契機に、「つぐら」の振興に取り組み、「飯つぐら」や現在の形状の「猫つぐら」が造られるようになった。
- ・最近では、ペットブームと相まって「猫つぐら」の注文が増える中、わらの長さ・太さの統一や強度を出すためのたたき方等の講習会を開催し、品質向上を図っている。

主要製造工程



1 稲わら乾燥	稲わらが汚れないよう天日干し
2 稲わらすぐり	スベ(稲わらの表皮)等を取除く
3 稲わら切り	稲わらを50~60cmに切り揃える
4 稲わら打ち	稲わらを叩いて柔らかくする
5 底編み	稲わらを一定の太さにまとめ、中心部よりウズマキ状に外に向かって編む
6 胴編み	縁の上に積み重ねるように編んでいく 猫つぐらは、出入口下部の縁を三つ編みで仕上げる
7 天井編み	天井部分は、中心に向かって編んでいき、一番上で塞ぐ
8 名札付け	ひもを通した札を付ける
9 縁造り	胴の縁を三つ編みで仕上げる
10 蓋編み	本体より一回り大きく底編み、胴編み(深さ10cm程度)を行う
11 縁造り	蓋の縁を三つ編みで仕上げる



稲わら打ち



猫つぐらの天井編み